

ポリテクカレッジ京都
部長室の解説コーナー

【第 75 回：舞鶴市民新聞連載「ものづくり研究室訪問」上羽一博先生】2016 年 12 月 16 日

12 月お二人目は、生産技術科の上羽先生です(掲載記事はこちら)。日東精工(株)でのご経験を
生かして、企業の QCD(品質・コスト・納期)を学生に伝授しています。

今後の連載についてですが、来年 1~3 月の各月上旬に、大本 豊先生(電子情報技術科)、繁永
匠先生(生産技術科)、川埜雅太郎先生(電子情報技術科)をご紹介します。

能力開発部長 加藤 肇

京都レジャカテクポリ

ものづくり研究室訪問

www3.jeed.or.jp/kyoto/college

生産技術科 上羽 一博先生

出身は舞鶴市。綾部の日東精工(株)で技術部長まで務め上げたあと、縁あって生産技術科の常勤嘱託職員として教鞭を執っています。

企業時代は、工業用ファスナーの研究開発に没頭する毎日。「ファスナー(fastener)」といっても、衣類に用いられる「チャック(商標名)」や「ジッパー(zipper)」のことではなく、工業製品の接合に用いられるネジ類を指します。

そのため、金属材料に精通しており、主な担当科目は、材料力学や工業材料、基礎製図、精密測定など。また、豊富な企業経験を学生に語ることもしばしばです。



上羽先生とデジタルマイクロスコープ((株)キーエンス VHX-5000)



炭素鋼(鉄と炭素を主成分とする合金)の1つを選んで、表面を拡大表示していただきました

企業のものづくりを若者に伝授

12月お二人目は、生産技術科の上羽先生です。Q 担当されている科目に、金属の組成や物性を対象とする分野が多いようですが、マイクロスコープ(顕微鏡)の実習もその一つですか?

A そのとおりです。今使っているこの光学顕微鏡は、昨年初めに納入されたもので、1年生の「機械工学実験」と、2年生の「総合制作実習」の中で、使い方と分析法を習得してもらっています。特に「総合制作実習」では、合金が熱処理の条件によって、どのようになり、成が変わるのかを研究してもらい、最終的にはカラー版の熱処理図鑑として仕上げます。Q 将来の研究者も育てたいですか?

は、合金が熱処理の条件によって、どのようになり、成が変わるのかを研究してもらい、最終的にはカラー版の熱処理図鑑をお客様の要望どおりに仕上げることの難しさ、を学生に伝えたいです。

Q 将来の研究者も育てたいですか? A そのとおりです。今使っているこの光学顕微鏡は、昨年初めに納入されたもので、1年生の「機械工学実験」と、2年生の「総合制作実習」の中で、使い方と分析法を習得してもらっています。特に「総合制作実習」では、合金が熱処理の条件によって、どのようになり、成が変わるのかを研究してもらい、最終的にはカラー版の熱処理図鑑をお客様の要望どおりに仕上げることの難しさ、を学生に伝えたいです。

幸いなことに、このカレそろっており、プロがどんなには「QCD(品質・コスト・納期の英語頭文字を取ったもの)のAこのカレッジの設備意義を、ことあることに、を学生だけで使うのは、教えています。企業人ともったいないことです。して活躍するために不可欠な知識ですから。是非、ご連絡ください。